

令和6年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（市町事業担当者対象） 開催報告

1 趣旨

県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。

2 主催

滋賀県教育委員会

3 対象

- (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者
- (2) 各市町生涯学習・社会教育主管課担当者
- (3) 各市町学校教育主管課担当者
- (4) 学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育士（講演まで）

4 日時

令和6年4月26日（金） 13:30 ~ 16:40

5 会場

滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）

※対面での参加を基本とするがオンライン参加も可能



【講演】

6 内容

○開会行事

- ・事業説明（主な事業説明は事前に動画配信）
- ・CSアドバイザー紹介

○講演

- ・演題：「CSと地域学校協働活動の質的向上のために市町行政に望むこと」
- ・講師：西 祐樹 氏

（文部科学省 総合教育政策局 CSマイスター、福岡県春日市議会事務局議事課 主査）

○話題提供・担当者交流会

① 話題提供

「野洲市事業担当者として」

田中 千春 氏

(野洲市教育委員会事務局生涯学習課 主事)

② 担当者交流会

- ・今年度事業の状況や取組の重点等の交流
- ・事業の質的向上のための意見交流

7 参加者数

45名(来場 26名、オンライン 19名)

8 講演の概要

講師からは、担当者として事業の質的向上を図るために望まれることとして①事業趣旨の理解②担当者として望まれる姿の2つの観点から、福岡県春日市や全国各地の事例も交え、オンラインで御講演いただいた。

- ① 全国でも行政の事業担当者が異動等により、その内容等が引き継がれないことが多い。まず、担当者として地域学校協働本部事業やコミュニティ・スクールについて正しく理解することが必要である。地域の教育力の向上、社会に開かれた教育課程の実現、教職員の働き方改革等の諸課題の解決等、地域と学校の連携・協働の必要性を理解し、その解決のために担当事業を“自分事”としてとらえることが重要である。
- ② 市町で実際に実践されている協働活動について、視察等で理解を深め、現場で出会った人々との対話をとおして関係者とともに諸課題を解決していくプロセスが重要である。それが“当事者”としての意識を高めることにつながる。

講演では、全国の好事例を多数紹介いただき、わかりやすく御教示いただいた。また、後半は、参加者の事前質問や会場からの質問に丁寧に回答いただき、事業担当者の思いに寄り添ってすすめていただいた。励ましの言葉もいただき、参加者にとって、今後の事業推進のための自信も高めていただくことができた。

9 話題提供・担当者交流会の概要

(1) 話題提供

野洲市では、令和5年度に市内全小中学校でコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を同時に導入された。その円滑な実施のために、CSディレクターを配置したことや推進員連絡協会の開催、協働活動ニュースペーパーの作成等の取組について紹介していただいた。また、事業担当者として“みんなが楽しむ地域学校協働活動”を一貫して発信したこと等、担当者としての思いを伝えていただいた。



【話題提供】

(2) 担当者交流会

会場4グループ、オンライン2グループの小グループで“みつめなおして よりよく”をテーマに、各市町の実施状況や取組の重点の交流や事業の質的向上のための意見交換を行った。

① 『原点回帰』

事業の形骸化が課題となっているという話題に対して、事業が“なぜ必要なのか”“何を指すのか”について関係者が集う会議で繰り返し伝えることが大切である。また、担当として、活動を視察し、理解し、関係者とつながることも大切である。



【担当者交流会】

② 『理解者を増やす』

協働活動を持続的な取組とするためにも、地域、保護者、教職員等の関係者の理解は重要である。そのための広報活動は大切である。また、コーディネーターにより、活動は変わる。コーディネート人材を探すこと、育てることやコーディネーターを統括する人材を配置することも効果的である。

最後に、滋賀県 CS アドバイザーの伊藤氏により、「担当者として思いを共有し、それぞれの市町でどのように事業を進めていくか、前年度までの積み上げを理解して推進していただきたい。」と総括があった。



【CSアドバイザーによる助言】

10 参加者のアンケートより

【講演】

- 生涯学習という視点に立ち、この地域力強化プランに取り組むことが行政の立場からはとても大事に思った。「地域力強化」とは、地域の教育力を高めることであり、地域の活性化であることを心において職務にあたりたい。
- 様々な取組・事例を紹介していただき、行政として自分に何ができるかについて考えることができました。現場の空気を感じることも、まず現地で学ぶことが大切だと思いました。
- 「学校運営の基本方針」は話し合いによる承認を行うことで、共育目標となり、当事者意識の醸成に繋がるといことが心に残りました。
- 自分が課題と考えること、疑問や悩みに寄り添っていただけた感が大きい。事業担当者としてなすべきことが明確になった。

【話題提供】

- 野洲市の話題提供は本市でも早速取り組めるのではないかと考える。「学校運営協議会ニュース」や今後検討していかなければならない CS ディレクターの配置など学びが多かった。
- 市内9校に一斉に導入されたので大変であったと思われるが、CS ディレクターと一緒に楽しんで取り組むという考え、素晴らしかったです。

【担当者交流会】

- 本市でも同じようにできるかはわからないが、アプローチの方法として多様な手段があることを知ることができた。
- 教職員（学校）にCSが浸透していないのではないかという共通の課題が見えたことによって、すべきことが一つ明確になった。
- もっと学校にも訪問しようと思いました。”原点回帰”の言葉が一番印象に残りました。